

教科	地歴	科目	日本史A			単位数	2
学科	普通科	履修学年	2	コース	文系	必修・選択	必修
教科書	『高等学校 日本史A 新訂版』(清水書院)						
副教材等	なし						

学習目標	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開を、世界史的視野に立ち我が国を取り巻く国際環境などに関連付けて考察させることによって、歴史的思考力を培い、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての資質を養う。
------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------

指導の重点	歴史を学ぶことは、過去の問題にとどまらず、現在及び未来の課題を考える上で不可欠のものを理解させる。また、日本の近現代史を世界史的視野・地理的視野に立って概観させることの必要性を認識させる。
-------	------------------------------------------------------------------------------------------------

学習計画	学期(時数)	学習項目	学習内容(学習活動)	評価方法
	1学期(20)	序編 私たちの時代と歴史	<ul style="list-style-type: none"> 近代以前の日本の歴史を概観する。日本の国家形成と文化の発展を、東アジア世界との関わりにも注目しながら考察する。 長い歴史の中で培われてきた風俗や慣習が、どのように伝えられ、現代人の生活にどのように息づいているか考察する。 	定期考査 課題提出 ワークシート
		第1編 近代の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> 産業、学問・思想、教育における近代の萌芽や欧米諸国のアジア進出に着目して、幕藩体制動揺期の内外の情勢について理解する。 文明開化などに見られる欧米文化の導入と明治政府による諸制度の改革に伴う社会・文化の変化に着目して、開国、明治維新から自由民権運動を経て立憲体制が成立するまでの我が国の近代国家の形成について理解する。 条約改正や日清・日露戦争前後の欧米諸国やアジア近隣諸国との関係の変化及び産業革命の進行に着目して、我が国の対外政策の推移と近代産業の成立について理解する。 	
	2学期(24)	第2編 大戦期の日本と世界	<ul style="list-style-type: none"> 政党の役割と社会的な基盤、学問・文化の進展と教育の普及に着目して、政党政治の推移と大衆文化の形成について考察する。 都市や村落の生活の変化と社会問題の発生に着目して、近代産業の発展とそれが国民生活にもたらした影響について考察する。 諸国家間の対立や協調関係と日本の立場、国内の経済・社会の動向、アジア近隣諸国との関係に着目して、二つの 	定期考査 課題提出 ワークシート

			世界大戦とその間の内外情勢の変化について考察する。	
3 学期 (20)	第3編 現代の世界と日本	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後の国際関係の推移に着目して、占領政策と諸改革、新憲法の成立、平和条約と独立など我が国の再出発及びその後の政治の推移と新しい外交関係の確立について考察する。 生活意識や価値観の変化に着目して、戦後の経済復興、技術革新と高度成長、経済の国際化日本経済の発展と国民生活の向上について考察する。 経済や文化の国際的交流、科学技術の発達と世界の平和、我が国の国際貢献の拡大などに着目して、現代世界の動向と日本の課題及び役割について考察する。 	定期考査 課題提出 ワークシート	

計 6 4 時間 (5 5 分授業)

	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
評価規準と 評価方法	近現代史を中心とする日本の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を自覚する。	近現代史を中心とする日本の歴史の展開から課題を見だし、世界史的視野・地理的視野に立って日本を取り巻く国際環境と関連付けて多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断し、適切に表現する。	近現代史を中心とする日本の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追究する方法を身に付ける。	近現代史を中心とする日本の歴史の展開についての基礎・基本を確実に習得し、世界史的視野・地理的視野に立って日本を取り巻く国際環境などと関連付けて理解し、その知識を習得する。
	[評価方法] 以上の観点をふまえ、 授業への取り組み（授業態度・学習活動への参加状況など）、課題の提出状況、定期考査、思考力ワークシートによって総合的に評価する。			
学習の ポイント	日本史Aは近現代史を中心に学習していく科目である。我々が生きている現代社会をより良いものにしようとするならば、現在に至る歴史を知り、そこから示唆を得て未来に活かす必要がある。そのため、単に暗記科目として語句を暗記するだけではまったく不十分である。学習したことを糧に、未来の意志決定に活かせるよう学習に取り組んでほしい。			